

【 日韓スポーツ交流2019 ハンドボール競技(男子・派遣) 】

2019年9月24日～29日

開催国 : 韓国 ・ 都市 : 済州

試合結果報告 9 月 27 日 (金)

JPN(日本)	VS	KOR(韓国)
11	前半	14
13	後半	11
	第一延長	
	第二延長	
24	合計	25

個人得点

No.	名 前	得点
1	小山内 夢琉	
2	親泊 寛粹	1
3	土岐 有斗	1
4	伊禮 颯雅	3
5	清黒 瞳太	1
6	横田 怜	1
7	鎌仲 大夢	4
8	臼井 巧己	
9	栗田 哲太	3
10	杉本 偲哉	
11	下川 陽向	6
12	松下 幸祐	
13	安里 健伸	
14	後藤 圭汰	2
15	細野 聖太	
17	鴻巣 開輝	2
	合計	24

戦評

訪韓4日目、2日間合同練習を行い、ある程度、お互いの特徴を把握し合っている中での試合。日韓戦当日の朝、ローランド監督から日韓戦に向けて約束事の徹底を指示されました。メンバーは全員を満遍なく起用する事、7人攻撃を後半25分は全てトライする事、DFとOFでの戦術確認を行い試合に臨みました。

韓国のスローオフで前半25分が開始。お互い硬さがあり立ち上がりミスが続く中、先制したのは日本。14番後藤のサイドシュートで先制。しかし日本はここからミスが続く、その間に韓国8番のミドル、3番のサイドシュート、77番の打点の高いロングシュートに苦しめられる展開。しかし日本も11番下川の連続得点で4-7とする。前半12分40秒、ここでローランド監督がタイムアウトを要求。ミーティングの指示通り選手全員を入れ替える。入れ替わり後も韓国77番の長身選手のシュートに苦しめられるが、替わって入った、9番栗田のサイドシュート、7番鎌仲のミドル、1番ゴールキーパー小山内の好セーブで踏ん張り11-14の3点ビハインドで前半を折り返した。

後半日本は7人攻撃を終始展開。狙い通りノーマークを作るも、再三韓国ゴールキーパーにセーブされ嫌な流れに。しかしゴールキーパー12番松下の踏ん張りもあり速攻から4番伊禮ロングシュート、7MT、11番下川の速攻、そしてまたしても4番伊禮の鮮やかなスカイで5連取し後半12分、18-18の同点に追いつく。韓国チームもたまたまタイムアウトを要求。ここからは一進一退の攻防が続く。前半から好調を維持する3番のサイド、8番のミドルで韓国も応戦。日本も前半同様に入れ替わって入った7番鎌仲、17番鴻巣、5番清黒の活躍で最後まで勝負の行方が分からない緊迫したゲーム展開となるも、後半23分に日本チームが退場者を出した所を韓国77番に打ち抜かれ24-25の1点差の敗戦となった。

しかし選手はオフェンス、ディフェンスとも今やれるべき事はしっかりトライしてくれました。次の日本ラウンドで更に精度を高めて臨みます。

報告記入者 :

山口 修